



私らしく生きるための政治

カウントダウン 2023 統一地方選！

生活者ネットワークの候補予定者を紹介します

2023年4月の統一地方選挙にむけて、スタートダッシュ！



東京・生活者ネットワーク
2023 統一地方選選対長／
都議会議員【国分寺市・国立市】

岩永やす代

コロナパンデミックから3年、ロシアのウクライナ侵攻が始まって間もなく1年。女性や子ども、若者をとりまく社会の状況、食料やエネルギー自給の問題、課題が日々浮き彫りになっています。

そのような中で、ヨーロッパを中心に自然と共生しながら食やエネルギー、子育てや介護など、暮らしに直結する市民主体の政治をめざす新たな地域主権の動き「ミニパリズム」が注目されています。このように地域の自治的な民主主義や合意形成を大切に、市民の代表者を政策決定の場である議会に送り出して、ボトムアップで政策提案を続ける活動は、まさに生活者ネットワークの政治そのもの。設立以来46年目を迎える生活者ネットワークのたゆまぬ実践そのものです。地盤・看板・カバンがものを言う政治風土に悼きし、地域力・市民力で女性が政治の場に参画する道を拓き、女性議員を議会に送り続けてきたのも生活者ネットワークです。

コロナ禍を経て若者や子育て世代が立ち上がり、国には任せてられない、つながり合いながら地域から変えていこうと動き始めています。

東京・生活者ネットワークは、今春4月23日に行われる統一地方選挙を、混迷の時代だからこそ「地域から政治を変えるチャンス！」ととらえ、おおぜいの市民とともに全員当選をめざして全力で取り組みます。

あゆみ

- 1977年 ●「生き方を変えよう」をスローガンに練馬で都議選に初挑戦。生活者ネットワークの前身「グループ生活者」を練馬で結成
- 1979年 ●初めての区議会議員が練馬区で誕生
- 1985年 ●「政治を生活の道具に」を掲げ北多摩二区で都議会議員誕生
- 1988年 ●「グループ生活者」から「生活者ネットワーク」に組織再編
- 1989年 ●東京都に食品安全条例の制定を求める直接請求運動に取り組む
- 1991年 ●東京都にリサイクル条例制定を求める請願運動に取り組む
- 1993年 ●「東京を変える」を掲げ都議会議員が3人になる
- 1997年 ●「バリアフリーの東京をつくる」を掲げまちのバリアチェック活動
- 1999年 ●統一地方選で「子育て・介護は社会のしごと」と訴え57人の都・市・区議会議員となる
- 2000年 ●東京都に子どもの権利条例制定を求める請願運動に取り組む
- 2001年 ●「東京を生活のまちに」と訴え都議選で6人全員当選
- 2003年 ●統一地方選で「地域力・市民力 安心・共生のまちをつくる」と訴え63人の都・市・区議会議員となる
- 2005年 ●「働く・育てる 市民力」をスローガンに3人の都議会議員が当選
- 2007年 ●統一地方選・都議補欠選で「こだわって地域 変えます！議会 つくります！仕事」を掲げ都議会議員4人、市・区議会議員51人になる
- 2009年 ●「市民が育てる 東京・未来」をスローガンに3人の都議会議員が当選
- 2011年 ●統一地方選を経て54人の都・市・区議会議員となる
- 2011～12年 ●原発都民投票条例の制定を求める直接請求運動に取り組む
- 2013年 ●「2013生活者宣言 大事なことは市民が決める」と訴え3人の都議会議員が当選
- 2015年 ●統一地方選を経て54人の都・市・区議会議員となる
- 2017年 ●「チャンス！東京を変える」と訴え北多摩二区で都議会議員が当選
- 2018年 ●48人の都・市・区議会議員となる
- 2019年 ●統一地方選を経て42人の都・市・区議会議員となる
- 2021年 ●「いまこそ東京を生活のまちに」と訴え都議会議員1人当選

生活者ネットワークの3つのルール

議員は交代制(ローテーション)

生活者ネットワークの議員は交代制。議員を職業化、特権化せず、世代交代を進めることで参加の層を広げます。任期を終えた議員は、市民政治を広げるための活動や地域活動などに、その経験を生かします。

議員報酬は市民の政治活動資金に

生活者ネットワークの活動はカンパで支えられています。議員も報酬に応じた寄付(カンパ)を行い、市民の政治活動資金に生かします。お金の流れは公開し、政治資金の透明化をはかっています。

選挙はカンパとボランティアで

選挙は政治に参加する入口です。みんなでお金(カンパ)と、知恵や労力(ボランティア)を出し合い、選挙を行います。

●みなさまのカンパを募集しています。

郵便振替口座番号00130-3-18417 加入者名「東京・生活者ネットワーク」

全国ネット

これまでに
生み出した
議員総数 630
現在の
議員数 82

東京ネット

これまでに
生み出した
議員総数 222
現在の
議員数 42

*参加と自治の市民政治を実現するために東京からスタートしたネットワーク運動は、議員の交代制をルール化することで、特に女性の政治参加を促進してきた。ネットワーク運動は、10の都道県に広がり、ローカルパーティ(地域政党)として位置づいている。
2022年12月現在

●4月23日(日)は、2023 統一地方選挙の投票日です(期日前投票は、4月17日～22日)。

が、地域発「市民政策」を実現します！

品川 よしだ ゆみこ

吉田 ゆみこ

1954年品川区生まれ。学習院大学卒業。生協で食の安全、環境問題に取り組む。生活クラブ生協理事長。「原発」都民投票条例直接請求の請求代表者。2015年～品川区議会議員（現在2期目）。総務委員会。

品川区を福祉・環境優先のまちにするために3議席を確保します

品川 いながき たかこ

いながき 孝子

1966年品川区生まれ。國學院大学卒業。東京職業能力開発センターなど勤務。しながわ女性フォーラム実行委員。一般社団法人「構想日本」勤務。2022年12月区議補選で品川区議会議員初当選。厚生委員会。

政治を変えるのは地域から！市民自治のまちづくりを実現します

杉並 そね ふみこ

そね 文子

1968年世田谷区生まれ。日本大学卒業。㈱アジア学生文化協会勤務。六ヶ所再処理工場反対運動に取り組む。2011年～杉並区議会議員（現在3期目）。子宮頸がんワクチン被害問題に取り組む。

持続可能で、誰もがその人らしく生きられる社会を目指しチャレンジします

杉並 おくだ まさこ

奥田 雅子

1960年江東区生まれ。フェリス学院短期大学卒業。総合商社勤務。北東京生活クラブ生協理事長。福祉、子ども・子育て地域活動支援のインクルーシブ事業連合事務局長。2015年～杉並区議会議員（現在2期目）。

孤立をさせない！困ったと言える、たすけあいのある地域をつくります

中野 ほその かよこ

細野 かよこ

1962年三重県生まれ。日本福祉大学卒業。ケア付き住宅の企画・運営会社など勤務。フリーランスデザイナー。なかのアクション・福島子ども保養プロジェクトメンバー。2015年～19年中野区議会議員。

ケア、子どもの権利、環境優先のまちづくりを市民参加で！

練馬 やない かつこ

やない 克子

1962年荒川区生まれ。大泉北高校卒業。鉄鋼メーカー勤務。生協業務を受託するワーカーズ・コレクティブに参画、理事。2014年4月区議補選で練馬区議会議員初当選（現在3期目）。保健福祉委員会。

福祉・環境優先、人権と多様性を認め合う地域社会の実現に取り組みます。

練馬 やまさき まりも

やまさき まりも

1976年調布市生まれ。東京家政大学卒業。出版社勤務。フリーライター。特別養護老人ホーム勤務。介護福祉士取得。NPO むすびケアメンバー。少年野球チーム父母会会長。北東京生活クラブ生協理事。

安全・安心な食と地球環境を次世代に！地域循環型のまちづくりを

目黒 ましもの ぶ

増茂 しのぶ

1964年渋谷区生まれ。青山学院大学卒業。家業のマロン洋菓子店従事。生命相互会社営業職員。夫が経営するライブハウスレストランに従事。国内外有機農家ホスト宅で農業生活体験。非電化工房に弟子入り。

誰もが自分らしく暮らせるまち・目黒を目指して市民の議席を確保します。

多摩 きしだ めぐみ

岸田 めぐみ

1983年吹田市生まれ。大阪信愛女学院高校、大手前栄養学院専門学校卒業。管理栄養士。㈱とうはん勤務。自主保育で子どもと野外活動を行う。生協まち多摩消費委員。2019年～多摩市議会議員。

みんなの人権が守られ、子どもたちが希望をもち成長できる多摩市にする。

調布 きのした やすこ

木下 やすこ

1973年神戸市生まれ。神戸女学院大学卒業。同大学院修士課程修了。私立中高教員。安保関連法に反対するママの会@調布。市教育委員会教育プラン策定検討委員会市民委員。2019年～調布市議会議員。

子どもや弱い立場にいる市民の小さな声を聞き、民主主義と平和の実現を！

八王子 かねこ あきこ

金子 アキコ

1976年室蘭市生まれ。国際基督教大学卒業。小売業、出版業などに従事。野外保育・共同保育を実践する森のようじえんに参加。生協デボーでワーカーズとして働く。保育施設で働く。保育士資格取得。

政治は希望のツール！バトンをつなぎ、子どもの未来につながる提案を。

八王子 たましょう さやか

玉正 さやか

1983年水戸市生まれ。カリフォルニア州サンタモニカカレッジ卒業。美容師免許を取得し美容室に勤務。帰国後、翻訳業務に従事。生活クラブ生協勤務、福祉事業に携わり、地域福祉の重要性を感じる。

小さな声に丁寧に耳を傾け、一人ひとりに寄り添った政策をすすめます。

清瀬 こにし みか

小西 みか

1966年足利市生まれ。横浜市立大学卒業。公認会計士。監査法人に非常勤勤務。清瀬市行財政改革検討委員、情報公開・個人情報保護審査会委員。2011年～清瀬市議会議員（現在3期目）。

だれにも居場所と出番と役割があり、一人ひとりを大切にするまち、清瀬に。

国立 こはま かおる

こはま かおる

1974年神奈川県生まれ。東京学芸大学卒業。デザイン事務所勤務。私立幼稚園PTA連合会役員。0・1・2歳児の親子支援活動参加。小学校PTA会長。くにたち図書館臨時職員。2019年～国立市議会議員。

すべての子どもに多様な居場所と、いのちが大切にされる地球環境を！

国分寺 たかせ かおる

高瀬 かおる

1961年大阪府生まれ。東京音楽大学卒業。生協理事。小・中学校PTA連合会委員。デボー国分寺・フロアーワーカーズ。野川流域連絡会委員。2011年～国分寺市議会議員（現在3期目）。建設環境委員会副委員長。

ケアする人の生活とケアされる人の幸せを同時に叶えるしくみをつくります

国分寺 こさか まさよ

小坂 まさ代

1969年足立区生まれ。立教大学卒業。百貨店など勤務。アパレル・デザイン会社勤務。「まちのおやこテーブル」呼びかけ人。小・中学校PTA連合会理事。2021年7月市議補選で国分寺市議会議員初当選。

おとなも子どもも「そのままがいい」と思える居場所を増やします

東村山 しらいし えつこ

白石 えつ子

1959年足利市生まれ。県立浦和商業高校卒業。（現）コニカミノルタ勤務。小・中学校PTA役員。高齢者・障がい者（児）の介助に従事。多摩きた生活クラブ生協理事。2015年～東村山市議会議員（現在2期目）。

誰のいのちも大切に、違いをみとめあうまちを市民参加でつくります。

東大和 せき あやこ

関 あや子

1979年東大和市生まれ。フリースクール「東京シューレ」在籍。都立新宿山吹高校卒業。舞台活動。フードコーディネーター養成スクール。会社勤務を経て、料理研究家開業。保育園勤務（調理担当）。

大人も子どもも思ったことが発信できる市民参画のまちづくりを進めます。

福生 みはら ともこ

三原 智子

1967年青梅市生まれ。都立青梅東高校卒業。京王帝都電鉄に勤務。ガールスカウト指導者。福生・生活者ネット設立時代代表。2015年～福生市議会議員（現在2期目）。総務文教委員会副委員長。

子どもを真ん中に、多様性を認め合い誰もが大切にされる共生のまちづくり

武蔵野 さいおんじ みきこ

西園寺 みきこ

1958年福島市生まれ。東北大学卒業。薬品会社勤務。高校教諭。東京農工大学大学院修士修了。2011年～武蔵野市議会議員（現在3期目）。福島原発告訴団やNPO むさしの市民エネルギーを支援。

やっぱり市民目線が必要！ ネットにしか言えない発言を続けていきます！

子どもは権利の主体！「今を生きる」子どもをはぐくむ

子どもの権利条例をつくる

すべての子どもに学ぶ機会を！

子育てを一人にしない、子育て・子育て支援を広げよう！

子どもにやさしいまちづくりを！

子どもは権利の主体！「今を生きる」子どもをはぐくむ

子どもの権利条例をつくる

すべての子どもに学ぶ機会を！

子育てを一人にしない、子育て・子育て支援を広げよう！

市民参加で政治を使いこなす！

生活の視点からの提案で社会のしくみを変える

市民自治のまちづくりをすすめる

市民にひらかれた自治体議会をつくる

平和・多民族共生のまちをつくる

安心して暮らすを誰にでも

非常時にも誰もが守られる保健・医療体制をつくる

感染症対策を避難所運営のスタンダードに

コロナ禍で顕在化した貧困を元から断つ

コロナで明らかになった社会課題に向き合う

安心して暮らすを誰にでも

非常時にも誰もが守られる保健・医療体制をつくる

感染症対策を避難所運営のスタンダードに

コロナ禍で顕在化した貧困を元から断つ

東京・生活者ネットワーク

2023統一地方選基本政策

私らしく生きるための政治

私らしく生きるための政治

議員とともにそれぞれの地域課題に取り組むと同時に、市や区をこえた「東京問題」には全体で取り組んでいます。

2023 統一地方選挙！ 生活者ネットワークの候補予定者たち

わたしたち

江戸川 いとうひとみ

伊藤ひとみ

1962年足立区生まれ。埼玉大学経済短期大学卒業。通信、生命保険、自動車などの企業、労働情報誌事務局など勤務。平和コンサート企画運営スタッフ。2015年～江戸川区議会議員（現在2期目）。

みんな違うからおもしろい！多様性を認め合える社会をめざします。

江戸川 もとにし みつえ

本西みつえ

1966年文京区生まれ。青山学院大学卒業。生命保険会社勤務。幼稚園非常勤講師。江戸川区内福祉NPO法人理事長。高齢者・障がい者・子育て支援の現場で働く。2015年～江戸川区議会議員（現在2期目）。

人と人をつなげ、誰もが自分らしく生きることができる社会をつくりまします。

江東 ちば さきえ

千葉さきえ

1979年世田谷区生まれ。東京農業大学卒業。企画制作会社勤務。子育て支援企業事務局スタッフ。生活クラブ生協まち委員。2019年～江東区議会議員。文教委員会、防災・まちづくり対策特別委員会。

生活者ひとり一人が声を上げられる市民自治の地域づくりをすすめます。

品川 たなか さやか

田中さやか

1982年目黒区生まれ。都立南高校（現美原高校）卒業。アパレル会社勤務。脱原発デモや官邸前抗議に参加。放射能から子どもを守る会で活動。2015年～品川区議会議員（現在2期目）。文教委員会。

今を戦前にさせない！人権が守られる社会を品川から実現していきます

世田谷 たかおか じゅんこ

高岡じゅん子

1960年渋谷区生まれ。立教女学院高校卒業。筑波大学卒業。（株）ワコール勤務。生協理事。環境省登録環境カウンセラー。宅地建物取引士。2011年～世田谷区議会議員（現在3期目）。

気候危機対策は今後4年が勝負。持続可能な世田谷へ全力で取り組みます。

世田谷 かない えりこ

金井えり子

1964年杉並区生まれ。目黒星美学園高校卒業。日本獣医畜産大学中退。着ぐるみアクター、司会のお姉さん、MC講師。生協理事、監事。NPO法人コンチェルティノ監事。2019年～世田谷区議会議員。

「子どもの笑顔を守りたい」子どもの権利が尊重される社会を目指します。

世田谷 せきぐち えりこ

関口江利子

1974年広島県呉市生まれ。安田女子高校卒業。成安造形大学卒業。設計デザイン事務所（株）SD勤務。世田谷区社会福祉事業団／NPO法人ACT 世田谷ゆりの木でヘルパー業務。生協理事。

多様性を認め合い、安心してその人らしくいられる社会を目指します！

世田谷 おの みずき

おのみずき

1992年静岡県生まれ。静岡県立韮山高校卒業。横浜国立大学・同大学院修了（経済学修士）。パリ大学東クレティユ校へ1年間の交換留学。2017年～開発コンサルティング会社勤務。ODA気候変動案件に従事。

女性も自由に健康に安心して生きられるまちづくりを世田谷から進めます！

稲城 むらかみ ようこ

村上洋子

1955年山形県生まれ。法政大学卒業。全労済、文映教育映画社勤務。調布市子ども条例の市民策定委員。生協理事。若葉台オパブ保育園で非常勤として働く。2015年～稲城市議会議員（現在2期目）。

オーガニック給食でひとと土もまとも元気にな！

狛江 まつざき よしこ

まつざき淑子

1959年目黒区生まれ。成城大学卒業。日本機械学会勤務。ワークス・コレクティブ・職サンス理事。保育園非常勤職員。エネルギーシフトを実現するこまの会で活動。2019年～狛江市議会議員。

現職の経験を活かし、市民の声を市政に伝え支援のしくみをつくりまします！

狛江 おぎ てつろう

小木てつろう

1959年豊橋市生まれ。慶應義塾大学卒業。NHK勤務。テレビ朝日勤務。報道ステーションプロデューサー（番組総責任者）。狛江ラジオ放送株式会社（コマラジ）運営メンバー＆パーソナリティ、災害報道担当。

報道現場に40年 発信力で狛江を変える 災害から市民を守る 子育て全力支援

多摩 いわさき みなこ

岩崎みなこ

1960年武蔵野市生まれ。中央大学卒業。証券会社勤務。NPO「青い空」に所属、CAPワークショップ、セルフディフェンス・デートDV防止講座の活動。2015年～多摩市議会議員（現在2期目）。

2期8年の経験を活かし、誰もが自分らしく過ごせる社会の実現を目指します。

府中 おくむら さちこ

奥村さち子

1963年武蔵野市生まれ。都立八王子東高校、ビジネス系専門学校卒業。コンピュータ・計測器製造販売会社勤務。市内福祉系NPO法人理事、事務局長。都内福祉系NPO法人副理事長。2019年～府中市議会議員。

在宅介護体制とケアラー支援の充実に向け、地域から声をあげていきます。

昭島 はやし まいこ

林まい子

1977年中野区生まれ。慶應義塾大学卒業。在学中海外でのワークキャンプ等参加。日本経済研究所勤務。にしたまソーシャル映画祭などに参加。昭島市子ども・子育て会議市民委員。2019年～昭島市議会議員。

市民とともにつくる、自分らしく希望をもって暮らせる持続可能なまちへ！

昭島 かてな まき

かてな真樹

1977年調布市生まれ。大妻女子大学短期大学卒業。大手百貨店勤務。ホームステイとして30カ国100人以上を受入れ異文化交流をはかる。放射能要書提出、署名活動。昭島市学校給食運営審議会委員。

食、農、環境、命と人権を守り、誰もが自分らしく豊かに生きるための政治

国分寺 まつおか まり

松岡まり

1984年愛知県江南市生まれ。岐阜大学卒業。京都大学大学院修了、農学修士。井村屋勤務。国分寺・国立のコミュニティまの輪を運営メンバーとしてスタート（現まのわ）。料理教室や出張料理等の活動。

一人ひとりが「やりたいと想ったことができる」「応援しあえる」まちにします

小平 さとう えつこ

さとう悦子

1964年長崎県生まれ。長崎県立女子短期大学卒業。法律事務所勤務。小、中学校PTA活動。生協まち委員長。生活クラブ東京農業政策委員・体験農園研究会メンバー。2015年～小平市議会議員（現在2期目）。

いのちをつなぐ環境をまもるために、地域の中で地道に取り組まします。

小平 しば おひろみ

柴尾ひろみ

1964年新宿区生まれ。都立小平高校卒業。助産院勤務などを経て、福祉のたすけあいワークス（NPO法人／訪問介護事業所）でヘルパー、理事。小平市環境審議会公募委員。小平・生活者ネットワーク代表。

小さな疑問は豊かな未来を創る種子。ケア現場で感じた「なぜ？」を政治につなげます



2023 統一地方選挙
基本政策

生きるための政治 私らしく

東京・生活者ネットワーク

●東京・生活者ネットワーク 2023 統一地方選挙基本政策 2022年11月20日発行 定価100円 発行：東京・生活者ネットワーク A4判36頁 問い合わせ TEL03-3200-9189 tokyo@seikatsusha.net

- 子どもの生きる環境を守り、子どもの育ちと食の安全を守ろう！
- だれもが自分らしく暮らせるまちに
- 縦割りから包括的な切れ目のない支援へ、地域のネットワークで支え合う社会に
- 個人の自己決定を尊重しあい、互いを認め合うインクルーシブな社会へ
- ケアする人もされる人も大切にされる社会へ
- 住まいは人権——すべての人に住まいの保障を
- コロナにより顕在化した貧困の連鎖を断つ
- ジェンダー主流化で、私が私のままでいられる社会へ
- すべての施策をジェンダーの視点で見つめ直し、多様性を認め合う共生社会を実現する
- 女性の人権を国際基準に！ジェンダーギャップ指数脱三ケタを足元からすすめる
- 私の身体は私のもの。SRHRの視点をあたりまえに
- 女も男も生活者——働き方と社会のしくみを変えていく
- いのちをつなぐ環境をまもる
- 持続可能な地球環境と暮らしを市民とつくる
- 循環型社会にシフトし気候変動をストップ
- 食とエネルギーの自給率アップと地産地消を推進する
- 安心して暮らすための社会インフラ

生活者ネットワークは市民の政治ネットワークです。東京都内34の自治体にあり、都議1人、市・区議41人の女性

2023 統一地方選 生活者ネットワークを応援します！

杉田 敦

法政大学教授

生活者ネットは、暮らしの中に政治の課題を発見し、解決のための提案をする人たちの集まりです。このような方々が政治の場に多数で行くことで、確実に日本の政治は一步步に進むことができます。生活者ネットをよろしく。



三木由希子

NPO 法人情報公開クリアリングハウス理事長

社会の多様性、地域の人々の生活の多様性に対し、議会は多様な人々を代表しているのかが問われています。市民の立場から、社会のひずみに目をむけ、前向きに取り組む生活者ネットワークに期待しています。



山口二郎

法政大学教授／立憲デモクラシーの会共同代表

地域から生活者のための政治を実現するネットワーク運動が始まって、40年以上たちました。政治の世界には挫折や後戻りがありますが、これまでにできたこともたくさんあります。生活不安が広がる今、改めて生活者の政治を実現するために、共に頑張りましょう。



●浅倉むつ子 早稲田大学名誉教授

生活者の目線で人権問題にとりくむ生活者ネットワークを応援します。

●天笠啓祐 ジャーナリスト

政府は一方で戦争できる国づくりに前のめりで、他方で生活を破壊し、農林水産業を破壊し、食の自給と安全を奪う政策を次々と打ち出しています。平和を守り、市民生活を守り、食料主権を確立する道を進むため、広く市民が連帯して闘うことが大切です。生活者ネットが地域を基盤にその先頭に立っていることを心強く思います。

●安溪遊地 山口県立大学名誉教授

東京・生活者ネットワークが活躍する過密都市東京と、私の暮らす山口県の過疎の山村は、運命共同体です。共通の課題は、ジェンダーや文化の多様性への寛容と、生存の基盤である生物多様性が守られる「適密・適疎」の地域づくり。自給率を高め、子どもたちがのびのびと生きられる場づくりへ協力しあいましょう。

●池田あつ子 東京・生活者ネットワーク元都議会議員

私たち一人ひとりの思いを一票という投票で、私たちの意見を議会を通して発信できるようにし、その成り行きと結果とともに責任を持つ自治のまちをつくる地方議会選挙です。この機会を逃さず今の自分の出来ることで参加します。そうした応援を広げることが一人ひとりを重んじる社会に変える生活者ネットワークの力だと信じます。

●池田こみち (株)環境総合研究所顧問

●石毛鏡子 ワーカーズ・コレクティブまちの縁側・小山田桜台居場所さくらさくら代表

ウクライナ情勢に表象される軍需による消費の拡大、岸田政権も敵地攻撃能力などと追隨し始めました。地域政党としての東京・生活者ネットワークはこれにどう抗されるのでしょうか。ご活躍を祈念し、期待いたします。

●伊藤久雄 NPO法人まちぼっと理事

コロナ・パンデミックで大きく変わった世界。ロシアによるウクライナ侵攻で動揺する世界。安倍・菅・岸田とまったく変わらない日本の政治。この政治を動かすのは春の統一自治体選挙です。葛飾、日野、立川、品川、西東京と続く勢いを持続し、東京を変える主役となることを期待します。

●今中哲二 原発問題研究者

「勝手な国策の実施」、「敵基地攻撃能力整備という戦争準備」、「原発帰還政策のごり押し」といった、聞く力をもたなく岸田政権を止めさせ、人々の声を聞く政権づくりに向けて、生活者ネットの躍進に期待しています。

●上村英明 恵泉女学園大学名誉教授／市民外交センター共同代表

グローバルな大衆迎合主義が拡散する中、民主主義の「顔」をした独裁制や権威主義が社会に浸透しています。社会課題に向き合う経験と人権の考え方をきちんと理解した民主主義、歴史に根ざした公正な政策を実現できる多文化・多民族主義、異論や批判を持つ勇気が政治や政治家に必要とされています。生活者ネットの候補者に、大きな期待を持っています。

●内田聖子 国際NGO 共同代表

●内山 節 哲学者

腐敗し、傲慢になった政治の世界に抵抗の意志を示す行為として、生活者ネットの活動を応援します。

●遠藤保男 東京の水連絡会代表

有機フッ素化合物による地下水汚染は多摩地区の水道水源井戸にまで及びました。その水を飲んでいた人たちの自主的な血液検査でも体内汚染が確認されています。しかし東京都は汚染井戸を停止するだけで汚染物質除去と人体汚染検査は未着手です。東京都に地下水汚染への抜本的対策を確立させるには、生活者ネットワークが不可欠です。

●大河原雅子 衆議院議員

●大嶽貴恵 環境まちづくりNPOエコメッセ理事長

サーキュラーエコノミーでごみゼロウエストに！生活者ネットが得意な市民とともに大勢で考える。キーワードは「資源循環型社会」に応援しています。

●大友信勝 聖隷クリストファー大学教授

●大村 究 羽田問題解決プロジェクト代表

世界でも屈指の大都市東京の真ん中に騒音や落下物のリスク等を強い羽田新ルートは「無謀」の一言です。加えて都心を飛ばさずとも増便が可能であることと、政府が進める固定化回避検討会では都心飛行の抜本回避が困難であることも明らかになってきました。新ルート撤回に尽力する生活者ネットワークの躍進に大いに期待します。

●沖藤典子 ノンフィクション作家

東京・生活者ネットワークの活動を心から応援しています！！ 政治とは基本的に、生きる人を支えるべきものです。だからこそ、生活者の視点から、子育て、介護、就業、男女の平等など、人間の基本的な権を最大の目標とする政治が必要です。それを実現するのが、生活者ネッ

トワークです。投票すべきは誰か、有権者の見解に期待しています！！ がんばりましょう！ とともに！！

●鏡 論 法政大学大学院兼任講師

年を経ることにより、世相や生活は悪い方へ向かっていきます。それはおそらく、政治が生活者目線からずれているからだと思います。いまこそ、皆に暮らしやすい社会を取り戻すように生活者の声を届けてください。

●片岡 勝 第3世界ショップ創業者

生活者は時代の変化に敏感です。転換点に旗を上げたのは常に民草でした。私の創業した第3世界ショップはフェアートレードからコミュニティワークに活動の軸足を大きく移すことをアジアスタッフと決めました。まず、宇沢弘文先生の社会的共通資本の担い手として市民が何をするか？ 変革の仲間としてネットの挑戦に期待です。

●加藤健一 俳優

●金子匡良 法政大学法学部教授

命と生活を守る政治を実現するためには、地域に根ざした生活者の声を届ける政党が必要です。生活者ネットワークの躍進に期待します。

●神山美智子 弁護士

今日は、ロシアや中国の脅威という名のもとに、軍事国家になりつつあります。しかし敵基地攻撃能力、軍事費増強など、日本の平和のためには何の役にもたちません。何よりも必要なのは、日本国憲法前文の以下の文章を守り抜くことだと思っています。「日本国民は…平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。…全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。」ぜひ、生活者ネットワークには平和を守るため、頑張ってほしいと思います。

●工藤春代 NPO法人市民シンクタンクひとまち社代表理事

コロナ禍では困りごとを抱える人々を支えようと子ども食堂や居場所活動が増えました。孤立を防ぐためには子どもが遊べる場所や立ち話ができる「空間」、「居場所」が必要です。地域に何が必要なのか、埋もれる小さな声に耳を傾け、誰もが自分らしく生きることができる地域社会をめざす生活者ネットワークに期待します。

●黒部信一 小児科医／未来の福島こども基金代表／ワクチンーク全国代表

すべての市民、特にアラフォー以下の若い人たちが政治に関わることが求められ、その力を結集し、地方自治体から政策を変えていくことが必要です。特に社会の弱者たち、障がい者、女性、子ども、定職のない若者たち、シングルマザーや高齢者などの貧困層に対する政策の充実を求め、生活者ネットを支持します。

●小寺隆幸 元京都橋大学教授

岸田政権が進める大軍拡は日本を「新たな戦前」にするものです。この統一地方選挙で、平和を、生活を、いのちを守ろうという市民の声を結集し、何としても日本社会の軍事化に歯止めをかけましょう。草の根から市民の思いを政治に届けるために努力されてきた生活者ネットワークの皆様への躍進を心から期待しています。

●近藤恵津子 NPO法人コミュニティスクール・まちデザイン理事長

みどりの食料システム戦略、フードテックなどの国の動きにしっかりと目を向けつつ、学校給食を切り口に地域の人々がつながって、環境にこれ以上負荷を与えない、真にいのちを大切にしたい地域づくりを実現するために、生活者ネットワークの力が今こそ必要です。

●佐々木貴子 NPO法人まちぼっと理事長

水、食糧、エネルギー、人権、戦争…様々な危機に直面している現在、政治は一人ひとりが声をあげ、参加してこそ機能します。地域から多様な参加を可能にし、諦めずに市民自治を実践してきた生活者ネットワークの持続可能な共生社会づくりに期待しています。

●澤登早苗 恵泉女学園大学教授

●鳥袋善弘 山梨県立大学名誉教授

生活者ネットは市民生活から政治を考え、市民がつくる民主主義をめざします。議員は交代制で、生活者の立場で政治に関わります。福祉・子育て・教育などの予算を厳しく抑え込む軍備拡大政策に反対し、政治を市民の手に取り戻す政治を訴えます。

●白石 孝 NPO法人官製ワキングプア研究会理事長

個人情報保護条例でも会計年度任用職員制度でも顕著だったのが、中央政府の政策に「従い」、「自治が後退」していくことでした。地方分権で、政府と自治体は上下から対等の関係になったはずなのに、2010年代以降は逆戻りしています。生活者ネットが「生活と自治」を原則とした地域政治にとことんこだわることを期待します。

●白石好孝 白石農園園主

地域から市民参加で政治に取り組むことは、出来そうではなかなか簡単にはできないこと。その壁を破って、社会課題に取り組む姿勢にあらためて敬意を表します。農業者として自然・環境・食の分野とともに協働させていただくとともに、貴団体の活動を応援させていただきます。

●申 瑛榮 (シン キョン) お茶の水女子大学ジェンダー研究所・大学院人間文化創生科学研究科教授

コロナ禍で見えてきた様々な課題は、今こそ「生活者の視点」に立った政治が必要であることを気付かせてくれました。女性たちが中心となって、暮らしと命を大事にする新しい政治のあり方を試みてきた生活者ネットが、私たちの身近な地方議会から、今後さらに力強く草の根民主主義を広げていけるよう、心から応援いたします。

●進藤久美子 東洋英和女学院大学名誉教授

終息の見えないコロナ危機とウクライナ戦争が続く中で、政府は軍事費の増大と増税を模索し、生活者は医療や生活物資の高騰でかつてない劣悪な日常生活を強いられています。生活者主体の「安全保障」を守り抜くため、私たちの声を議会に届けてくれる代理人を一人でも多く地方議会に送り出しましょう。「安心・共生・自治」を掲げ、半世紀の政治実績をもつ生活者ネットワーク、応援します。

●鈴木 篤 弁護士

先頃発足したローカル・イニシヤチブ、ミーティングは混沌とした世界にあって、全く新しい民主主義を産みだしていく可能性を秘めた重要な取り組みだと思っています。そこで語られる「地方からのボトム・アップ」は、生活者ネットがこれまで一貫して掲げてきた基本思想でもあり、今後の活躍に期待が大きく膨らみます。

●鈴木礼子 社会福祉法人悠遊

だれもが自分らしく暮らせるまちにするためには、市民の声をきちんと聞き、政治に反映していくことが必要です。市民参加を大切に実行する東京・生活者ネットワークの活動に心から期待しています。一緒にがんばりましょう！

●瀬戸大作 一般社団法人反貧困ネットワーク事務局長

「どこにも相談できる場なんかなかった。やり直しが許されない、やり切れない程の孤独、ネットの中だけが逃避できる居場所、社会も政治にも期待なんかしていない」。支援現場での絶望の声だ。こんな社会にしてしまった政治の責任は重い。絶望に沈む若者たちから見える社会を共有すること、助けてと声をあげれば助けてくれる。「優しく温もりがある社会」これこそ生活者ネット！

●高野 孟 インサイダー編集長

岸田政権が時代に逆行してアジア近隣との戦争に突き進むかの剣呑な時代に、生活の現場から平和と安心を求めていく市民政治の役割がますます大きくなっています。頑張ってください。

●竹村英明 市民電力連絡会理事長

子どもたちの将来を考えたとき、最も大きく深刻な課題は「気候危機」です。現在のペースで地球温暖化が進めば、子どもたちの未来はないかもしれません。ぜひ再生可能エネルギーの拡大や省エネ政策の具体化を地方レベルで展開してください。

●田中三彦 サイエンスライター

放射性廃棄物の山を築き、戦時にはミサイルのターゲットになる原爆ほど非環境的でアンサステナブルなものはない。政治が競合ではなく協同に、単一性ではなく多様性に、強者ではなく弱者に、そしてソフトなエネルギーにもっと目を向ければ、原爆のようなマッチョ文化の産物は消滅する。東京・生活者ネットワークに期待します。

●田中 優 未来バンク代表

ウソ・デタラメばかりの中で、安心して信じられる生活者ネットワークの存在は貴重です。貴重でなくなる社会が望ましいんだけど。

●坪井照子 NPO法人循環型社会研究会理事

●坪郷 實 早稲田大学名誉教授

気候危機とコロナ危機という二重の危機の下で、持続可能な、回復力のある、冗長性のある市民自治体をつくっていくことが大事です。東京・生活者ネットワークは市民活動のネットワークとして、議会と市民をつなぐ行動力を発揮して、生活者のための自治体政策を提案・実現するときだと思っています。

●豊泉惣子 在宅福祉サービスNPO理事長

地域に根差し、市民自治として政治に取り組む生活者ネットワークだからこそ、現場の声を議会に届けることができています。混沌とする今の時代だからこそ、誰もとり残されない、一人ひとりを大切に尊重し合える社会を共につくっていくために、生活者ネットワークを応援します。

●中野晃一 上智大学教授

コロナ禍の生活苦に追い討ちをかけるように、命と暮らしを脅かす「国策」大転換が進められようとしています。生活者のために必要な予算を軍事費に回し、いったい何をやるのでしょうか。地域の生活の場に根を張ってきた生活者ネットワークでなければ、政治に届けられない市民の声があります。私たち生活者の声を議会へ！

●南部義典 国民投票総研代表／元慶大講師

政局ゲーム、自己保身とは無縁の立ち位置で、生活者の目線で語り、即行動する議員が今ほど求められる時代はありません。いよいよ市民自治を真っ当に築くための統一地方選挙です。弱者に厳しすぎる社会から抜け出せる

が、民主主義の真価が問われています。推薦候補全員の当選を祈念いたします。

●バギヤン(趙博) 芸人

反戦平和！人権擁護！生活防衛！

●橋本淳司 水ジャーナリスト／武蔵野大学客員教授

メディアやSNSでとびかう言葉に付和雷同するのではなく、顔の見える相手と、足元と未来を見据えた対話をしながら合意形成することが大切です。ウェルビーイングな暮らしをつくることを生活者ネットワークに期待します。

●長谷川茂雄 道路住民運動全国連絡会事務局長

コロナ禍で表面化した住民不在政治の転換を具体的に示して頂きありがとうございます。街づくり分野では事故などにより批判や不安が高まっている東京外環道やリニアをストップさせるために共に頑張りたいと思います。

●樋口恵子 評論家

●平戸伸之 NPO法人たがやす理事長

基本政策の実現をめざし、また、生きる源である食についても大いに語り、未来に続く活動を期待しています。

●福島浩彦 元我孫子市長／元消費者庁長官／中央学院大学教授

地方自治は市民一人ひとりから出発するもの。国からではなく、生活者である市民から始まる社会を創っていきましょう！それをリードできるのが、市民と同じ目線で考えて対話し、市民と共に行動する生活者ネットワークの皆さんだと思っています。心からエールを送ります。

●藤田愛子 一般社団法人生活サポート基金前理事長／元都議会議員

●保坂公人 神田川ネットワーク代表

いま、都市河川が抱える最大の課題は合流式下水道による環境悪化と集中豪雨による浸水被害です。雨水を下水管に入れない！公園や学校、道路に降った雨を貯める・地面に浸透させる「蓄雨」に市や区はもっと積極的に取り組むべきです。都市型洪水をなくし、潤いある地域づくりに市民参加で取り組む生活者ネットワークに期待します。

●堀 利和 視覚障害者・元参議院議員

住民自治を本務とする生活者ネットにとっても、本年4月の統一地方選挙はいったって一層重要なものになると思います。一地方選なら、おそらく当面国政選挙のない中、まさにボトム・アップの自治政治を超えて、岸田内閣をも周う内容とその重みをもつこととなるからです。政治は住民自治から、その意味でも候補者全員の当選を心より期待申し上げます。

●増田和美 生活クラブ生協東京理事長

貧困や格差の深刻化、超高齢社会、食料危機、気候危機とコロナ・パンデミックなど様々な社会的経済的な課題が山積みです。社会や政治の流れをかえるには、地域の生活課題を市民とともに考え、地域に根ざした政策づくりが必要です。誰もが安心して暮らせる社会づくりをすすめる生活者ネットワークを応援します。

●皆川満寿美 中央学院大学准教授

女性なら誰でもいいわけではありません！女性のエンパワーメント、男女平等、ジェンダー主流化(男女共同参画)を高く掲げる「わきまえない女たち」のローカルパーティとしての「東京・生活者ネットワーク」の方々に、とても期待しています。

●柳瀬麻知子 NPOプラス・ド・西東京理事長

コロナ禍で薄れてしまった地域の人間関係。地域コミュニティ再生に愚直に取り組む様々な団体や人々と共に、どの命も大切に守られ、いきいきと暮らせる社会づくりをすすめていきましょう。

●山田和夫 要町あさやけ子ども食堂店主

●山田 真 小児科医

わたしたちをとりまく環境の悪化はとどまることを知りません。香害やPFOS汚染などにとりくむ生活者ネットワークは市民の代弁者です。強く推します。

●山田正彦 弁護士／元農林水産大臣

●湯浅一郎 ピースデボ代表／環瀬戸内海会議共同代表

民主主義を市民社会に定着させるため、生活に密着した課題に取り組む東京・生活者ネットを応援します。核兵器禁止条約が発効した今こそ、日本は北東アジア非核兵器地帯構想を検討すべきです。また昨年末、合意された「昆明・モントリオール2030目標」に沿って生物多様性をキーワードに都市のありようを変えることを重点課題に入れてください。

●和田安希代 東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合

ローカルパーティとしての生活者ネットワークの政治に期待します。ワーカーズ・コレクティブは地域の必要に応じた事業を民主的な運営で行っています。事業の目的は生活の現場である地域のまちづくりです。政治を生活に引き寄せるために、生活者ネットワークの「政治の自治」を応援します。